

# 推薦の言葉

薬学実務実習学生に評判が高いだけでなく、現場の薬剤師や薬学部教員にも好評である「新ビジュアル薬剤師実務シリーズ上・下全2巻」が第3版として改訂された。知識・態度は上巻に、技能は下巻に、バランスよく振り分けられている。編者は薬局薬剤師および病院薬剤師としてそれぞれ定評のある上村直樹先生と平井みどり先生である。初版では薬局実習と病院実習が別の巻であったが、薬剤師業務としては本来一つであるとの発想から同じ巻にまとまった。初版の特長を継いでカラー写真やカラーイラストをふんだんに用い、さらに見やすく、また理解するのも容易になっている。薬学実務実習事前学習と病院・薬局実務実習のテキスト・参考書として、またOSCE対策として、薬学生にとっては心強い味方になるだけでなく、若手の薬剤師、実務実習指導薬剤師、薬学部教員にとっても大いに役立つ構成で、初版の精神を引き継ぎ、さらに有用さが増大している。調剤技術などはOSCEに対応した動画をQRコードによりスマートフォンなどですぐに見ることができ、章末のCBT対策問題はQRコードを通じて解答と解説を見ることが可能で、共用試験対策にも役立つ。

6年制薬学教育も開始からすでに10年を過ぎ、モデル・コアカリキュラムは平成25年に改訂された。この改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムの最大の変更点は、薬剤師として求められる10項目の基本的な資質を、臨床の場を含み、確実に身に付けることを前提にして作り上げられている。各到達目標に対応する本書中の解説の箇所は対応表により容易に見つけることができ、教科書としても有用である。また、実習内容は「実務実習実施計画書」として実習生ごとに、大学が積極的に関与して実習施設が作成する。このためには大学担当者と病院と薬局の指導薬剤師が実習を理解し、個々の実習学生に合った実習内容を協力して作り上げる。そのためには大学教員および病院と薬局の指導薬剤師も実習内容を理解し把握することが肝要となる。

この新ビジュアル薬剤師実務シリーズはこのような目的に適合するもので、薬学生は当然ながら、病院薬剤師と薬局薬剤師もすべてを理解できる。薬学実務実習で実習施設間の格差が問題になっている。このような問題に対しても、本シリーズが一つの標準的な実施例を示している。学生はこのテキストで学んで自信をつけ、一方、指導薬剤師と薬学部教員は教育内容に安心感を覚えることができる。実務実習事前学習と病院・薬局実務実習は、日本全国どこの大学・実習施設においても均質の実習を展開することが最大の目的である。このシリーズの内容は実務実習実施方法の適切な一つの例である。薬学生が正しく患者さんに向き合うために必要な知識・技能・態度をわかりやすく示している。この実習内容を各大学、各病院、各薬局にて精査し、それぞれの施設にふさわしい実習内容を展開していただきたい。

薬剤師は薬の専門職であることが求められ、薬に関しての全責任を負うことになった。このシリーズで薬剤師としての知識・技能・態度の基礎を身につけ、病院・薬局実務実習に参加することで、実務実習本来の目的である「患者さんに学ぶ」ことを求めて100%の力を発揮するものと信じている。また、健康サポート薬局、かかりつけ薬剤師についてもわかりやすく解説している。

以上、本シリーズが薬学実務実習のテキストとして大きな役割を果たすものと確信し、推薦する。

2017年9月

薬学教育協議会 代表理事  
東京理科大学薬学部 教授  
望月正隆